

〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成27年度事業計画

中期計画・中期目標・平成27年度事業計画 目次

目標関連マップ	127
本学の理念・目的・使命	128
本学が目指す将来像（ビジョン）	128
平成27年度 重点施策	129
I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標	135
1. 教育に関する目標	135
(1) 教育に関する目標（医学科・看護学科）	135
(2) 教育の実施体制等に関する目標	138
(3) 学生への支援に関する目標	139
(4) 看護専門学校に関する目標	140
2. 研究に関する目標	140
(1) 研究水準および研究成果に関する目標	140
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	141
(3) 総合医科学研究センターに関する目標	142
(4) その他	142
3. 診療に関する目標	142
●本院に関する目標	142
●葛飾医療センターに関する目標	147
●第三病院に関する目標	148
●柏病院に関する目標	150
II 法人運営の改善および効率化に関する目標	153
1. 運営体制の改善に関する目標	153
2. 人材確保・育成・活用に関する目標	155
3. 事務の効率化・合理化に関する目標	156
III 財務の改善に関する目標	156
1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標	156
2. 経費の抑制に関する目標	157
3. 資産の運用管理の改善に関する目標	158
IV 自己点検・評価の充実に関する目標	158
V その他事業運営に関する重要目標	159
1. 本院新外来棟建築に関する目標	159
2. 大学マスタープランの策定に関する目標	159
3. 創立130年記念事業に関する目標	159
4. 大規模災害時の対応に関する目標	160
5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標	160


建学の精神 病気を診ずして病人を診よ

本学の

理念 医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。

目的 “病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。

使命 社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

本学が目指す将来像 (ビジョン) 詳細は128ページへ 


建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。


教育	研究	診療	法人運営
質の高い医学・看護学教育	本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進	質の高い医療の提供	教育・研究・診療活動を支える安定した財政基盤の構築 大学の地域社会への貢献 創立130年記念事業


**H25～30年度
6年間の
中期目標**


平成27年度 重点施策

1. 質の高い医療人の育成	1. 医学・看護学研究の推進	1. 医療安全・感染対策の推進 2. 各附属病院間の活性化と機能分化 3. 患者サービスの推進 4. 地域貢献(医療連携の推進) 5. 効率的な医療の推進 6. 職種間の協力体制の構築 7. 予防医学の推進 8. 適正な保険診療の推進 9. 適正な収支構造の確立	1. 内部統制の強化 2. 法令遵守の徹底 3. 安定した財政基盤の構築 4. 西新橋キャンパス再整備計画の策定と着手 5. マスタープランの策定 6. 教職員の満足度向上と人材育成制度の強化 7. 業務改善の推進 8. その他
---------------	----------------	---	---

「教育」の事業計画は、135ページへ 

「研究」の事業計画は、140ページへ 

「診療」の事業計画は、142ページへ 

「法人運営」の事業計画は、153ページへ 

**H27年度
1年間の
目標**

各部門 B S C

個人の目標管理・成果評価シート

[本学の理念・目的・使命]

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：“病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

[本学が目指す将来像(ビジョン)]

- 建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性と倫理観を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師の育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発点となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院(博士課程と修士課程)教育の充実と改善を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。
- (5) 高い倫理観に基づいて研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師および医療職者の技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 各附属病院の特色を活かして、それぞれの活性化と機能分化を図る。

教育・研究活動を支える安定した財政基盤の構築

大学の地域社会への貢献

創立130年記念事業

- (1) 130年記念事業を継続して行う。

■教育に関する重点施策

1) 質の高い医療人の育成

- ・卒前教育の改善と充実を図る。
- ・国際基準に基づく医学教育分野別外部評価の指摘事項の改善を進める。
- ・新臨床カリキュラムの導入による診療参加型臨床実習のための系統的教育の構築を進める。
- ・臨床研修を充実し、質の高い研修医とレジデントを育成する。
- ・リサーチマインドを持った総合診療医養成プログラムの推進を図る。
- ・看護学科と看護専門学校は、協力して看護教育の向上を図る。
 - ①技術到達目標の達成に向け、効果的学習内容と方法を検討する。
 - ②医療現場との連携、協力を強化する。
 - ③卒業時の技術到達目標を定期的に評価、修正する。
- ・看護学専攻修士課程は、看護学科、看護専門学校および看護部と連携して教育者や専門看護師を育成する。

■研究に関する重点施策

1) 医学・看護学研究の推進

- ・各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
- ・新大学2号館（仮称）の臨床ラボ設置に向けて研究体制の構築を図る。
- ・学内学外の研究連携を促進する。
- ・研究者としての高い倫理観の涵養のための取組みを進める。
- ・研究者に対して臨床研究の計画・実施のサポートを行う。
- ・医療現場と連携して看護学研究を振興する。
- ・総合医科学研究センターの充実を図る。
- ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を推進する。
- ・医学・看護に関する情報を公開するなど地域社会に貢献する。

■医療に関する重点施策

1) 医療安全・感染対策の推進

- ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。

2) 各附属病院の活性化と機能分化

- ①附属4病院間の機能の有機的活用を図る。
- ②救急体制の充実
 - ・断らない救急受入れ体制を構築する。
 - ・本院は救急体制を充実させ、新外来棟での救命救急センター設置を目指す。
 - ・柏病院は救命救急センターとしての機能を強化し、地域医療に貢献する。
- ③がん診療の推進
 - ・がん診療に関する専門職者の育成に努め、本院と柏病院は「地域がん診療連携拠点病院」、葛飾医療センター、第三病院は「東京都がん診療連携協力病院」としての機能強化を図る。
 - ・葛飾医療センターは放射線治療の再開と化学療法の拡充を推進する。

3) 患者サービスの推進

- ・患者のニーズに適応した医療を推進する。

4) 地域貢献（医療連携の推進）

- ・前方および後方連携を強化する。
- ・地域医療ニーズに応えられるように医療連携および診療体制の改善充実を図る。
- ・災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援する。

5) 効率的な医療の推進

- ・ICT技術を活用し、医療の効率化を推進する。
- ・附属4病院でのモバイル環境の整備を図る。
- ・電子カルテ化によるデータウェアハウスの構築と活用を図る。

6) 職種間の協力体制の構築

- ・チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

7) 予防医学の推進

- ・大学として予防医学に貢献する。

8) 法令遵守の徹底

- ・特に適正な保険診療推進のため、保険診療の基本ルールを教育・研修により周知・徹底する。

9) 適正な収支構造の確立

- ・每期設定される医業利益目標を達成する。
- ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発薬品の採用を推進する。
- ・コストマネジメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、4 附属病院医材・物流の効率的運用を推進する。

※平成27年度より、これまで事業計画として取り扱っていた「附属4病院に関する目標」の内容を「医療に関する重点施策」として取扱うこととしました。

■法人運営に関する重点施策

1) 内部統制の強化

2) 法令遵守の徹底

- ・コンプライアンス強化のために具体的施策を推進する。

3) 安定した財政基盤の構築

- ・法人における収支構造の点検を行う。
- ・機関別の事業計画に基づく長期資金計画を策定する。
- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。
- ・ICT関連経費の適正化を図る。
- ・コストマネジメント・プロジェクトを中心に経費削減と効率化を図る。

4) 西新橋キャンパス再整備計画の策定と実行

- ・新大学2号館（仮称）、新病院（小児周産期センター（仮称））、新外来棟の建築計画を着実に進める。

5) マスタープランの策定

- ・慈恵大学百年記念事業委員会答申の検証を行う。
- ・大学マスタープランを策定する。

6) 教職員の満足度向上と人材育成制度の強化

- ・職場環境の改善、充実を図る。

7) 業務改善の推進

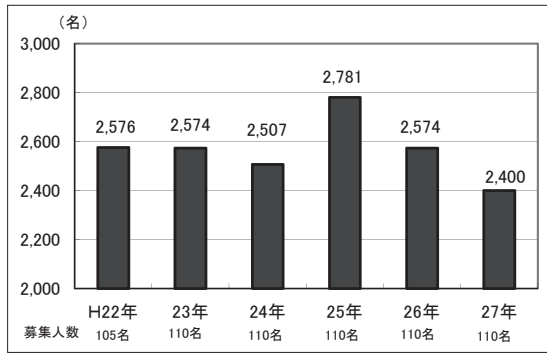
- ・労働生産性の向上に向けた対策を行う。
- ・中期目標・中期計画実現のためにBSC（バランスト・スコアカード）の推進とPDCAサイクルを活用し、単年度事業計画を達成する。

8) その他

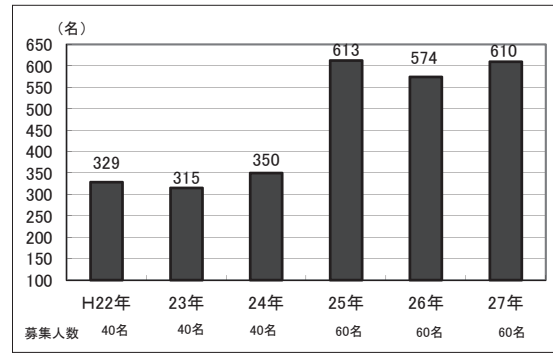
- ・情報公開の推進、広報活動の充実のため本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会に広報し、病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信を推進する。
- ・大規模災害対策の再整備とBCP（事業継続計画）を保守・点検する。
- ・地球温暖化防止関連法規を遵守し、エネルギーの有効利用とエコ活動を推進する。
- ・慈恵看護教育130年記念事業の実施

■教育に関する重点施策：参考指標

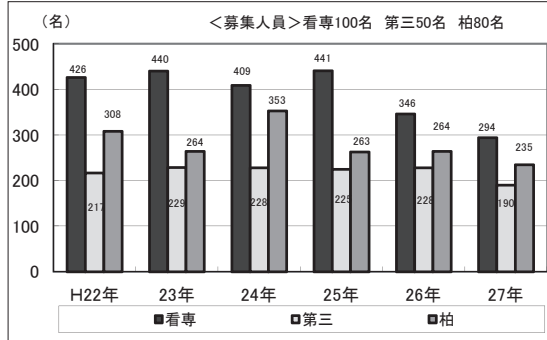
医学科志願者数



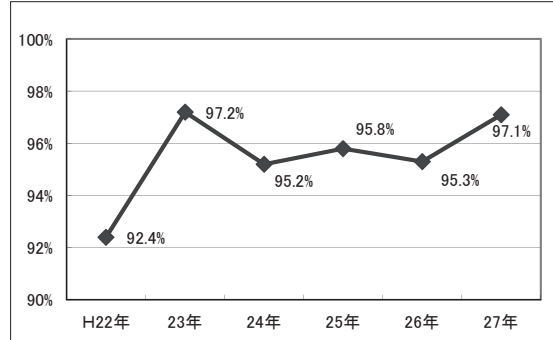
看護学科志願者数



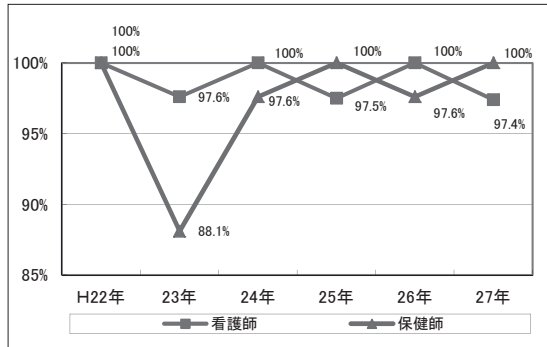
看護専門学校 志願者数



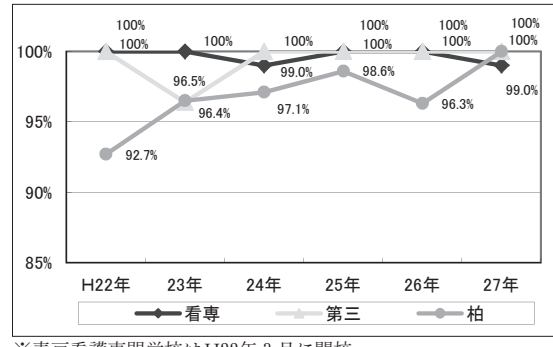
医師国家試験 合格率（医学科）



看護師・保健師国家試験 合格率（看護学科）

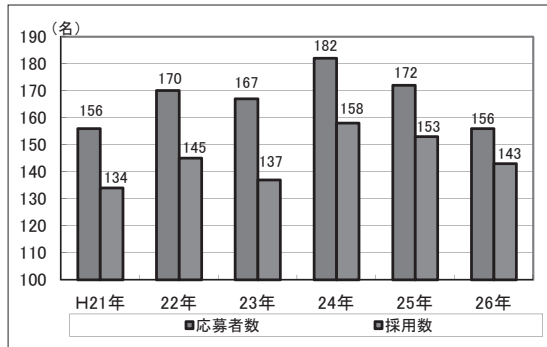


看護師国家試験 合格率（看護専門学校）

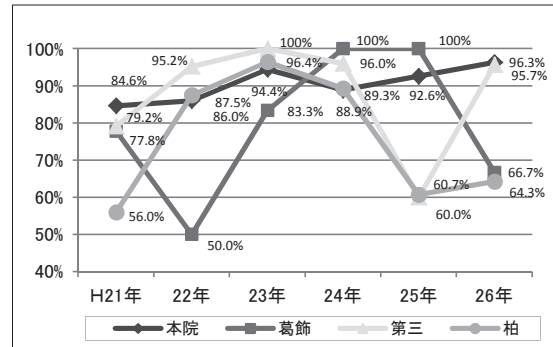


※青戸看護専門学校はH22年3月に閉校

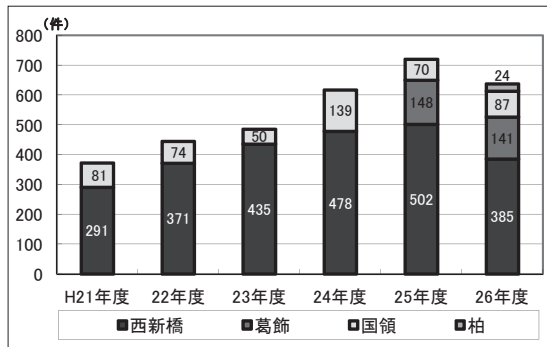
レジデント応募者数、採用数



医師臨床研修マッチングによる定員充足率



シミュレーション教育施設利用数

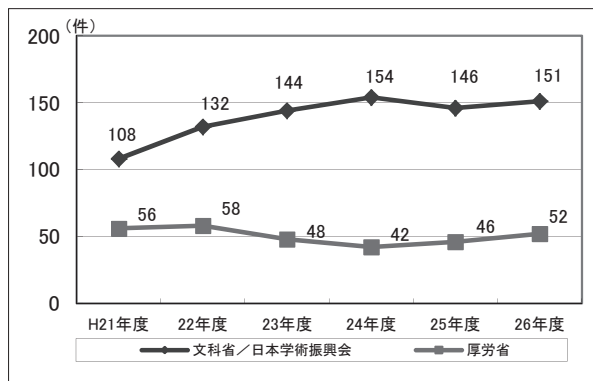


定員	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
本院	52	50	54	54	54	54
葛飾	9	8	6	6	6	6
第三	24	21	25	25	25	23
柏	25	24	28	28	28	28

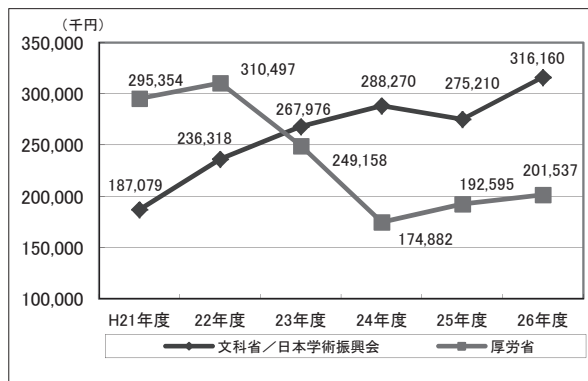
※葛飾医療センターはH25年度から稼働、柏キャンパスはH26年10月より稼働

■研究に関する重点施策：参考指標

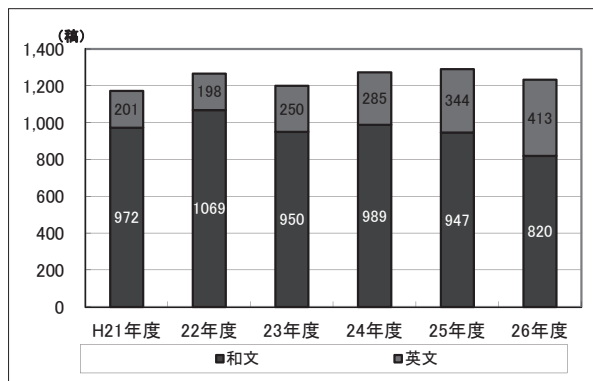
科学研究費補助金 採択件数



科学研究費補助金 採択金額

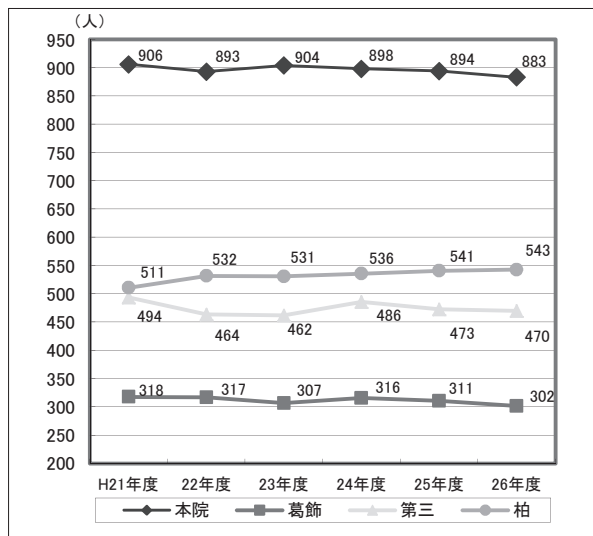


論文発表数

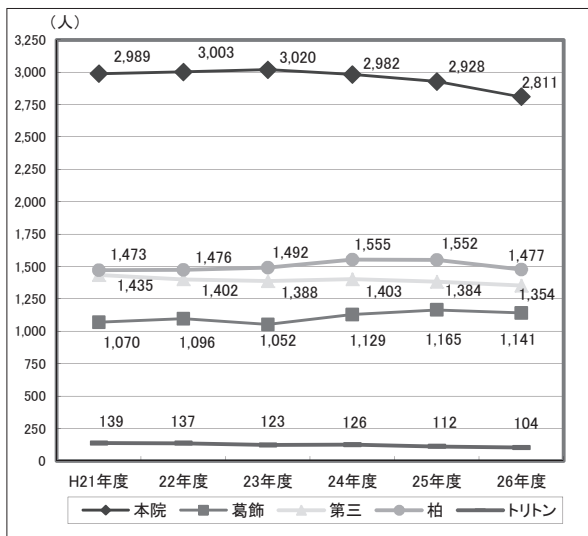


■医療に関する重点施策：参考指標

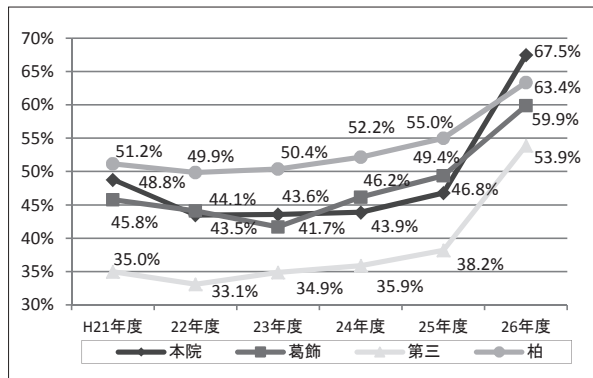
【入院】 1日平均患者数



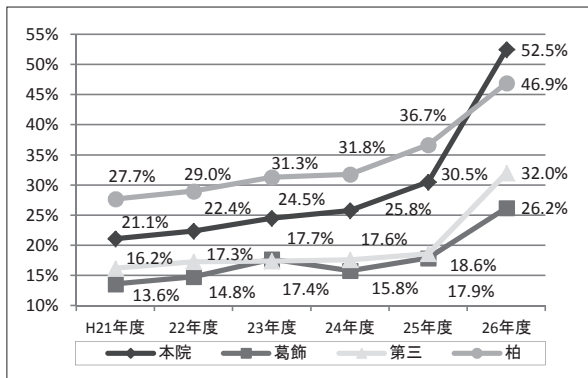
【外来】 1日平均患者数



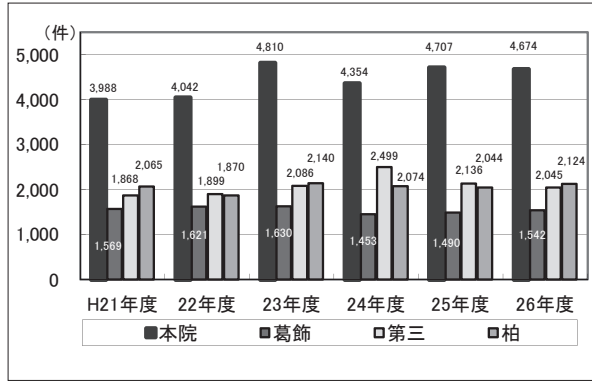
紹介率



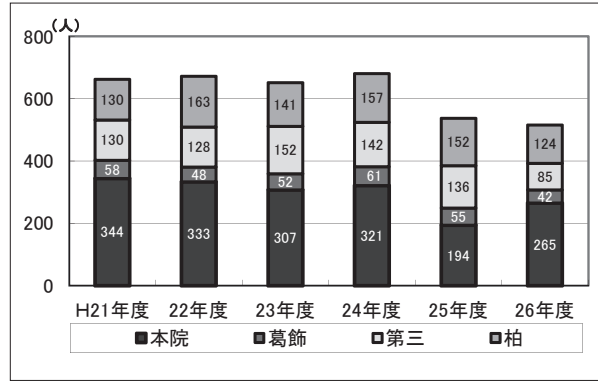
逆紹介率



インシデント・アクシデント報告件数

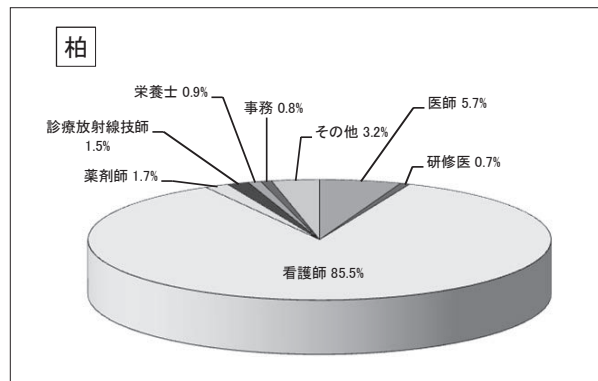
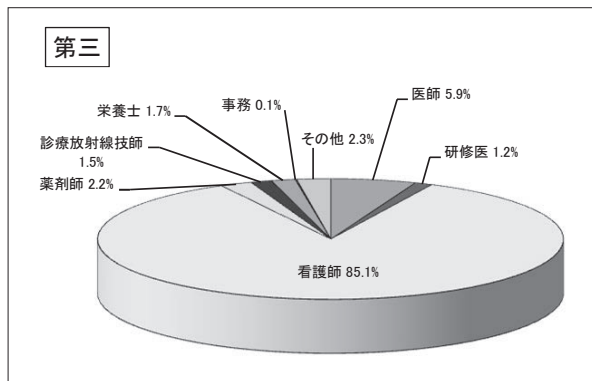
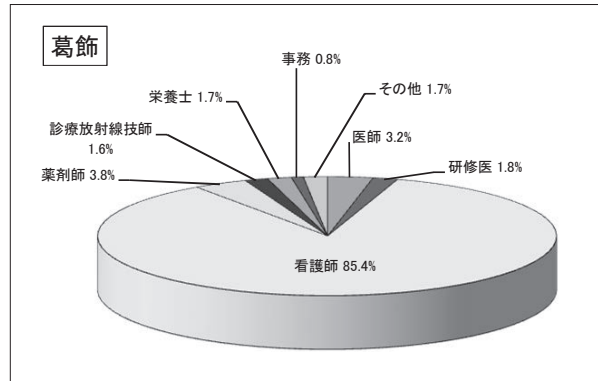
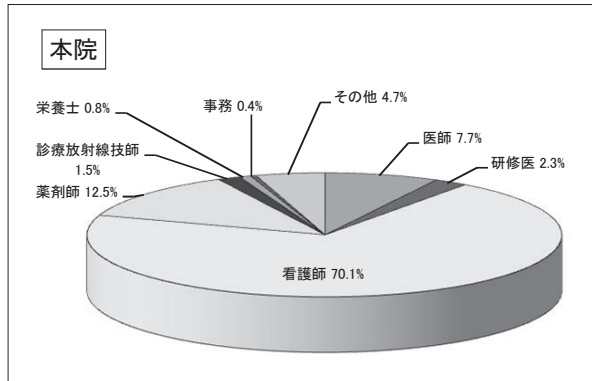


チーム医療構築WG参加者数

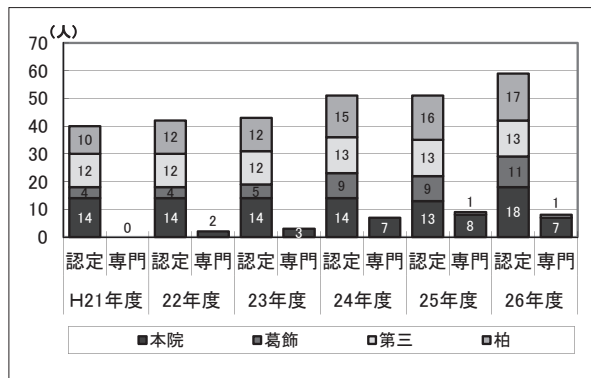


※多職種間のコミュニケーションをテーマにグループ討議を通じて更なる医療安全の質の向上と患者安全の方策について意見交換するワークショップ。H26年度の開催回数は本院3回、葛飾1回、第三2回、柏2回。

インシデント・アクシデント報告 職種別報告件数

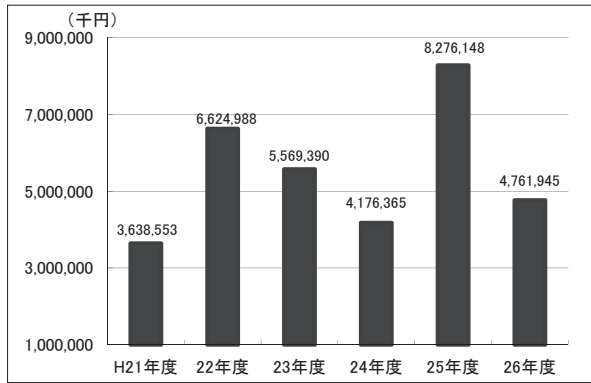


認定看護師数、専門看護師数

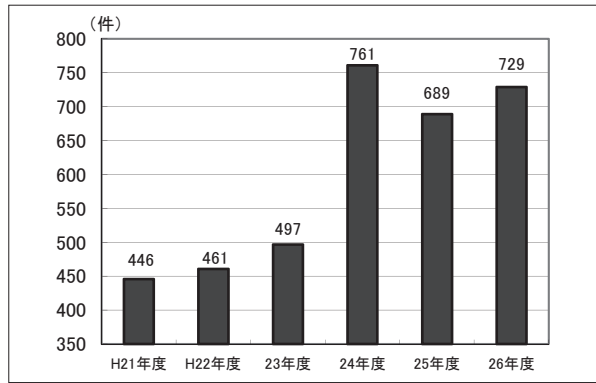


■法人運営に関する重点施策：参考指標

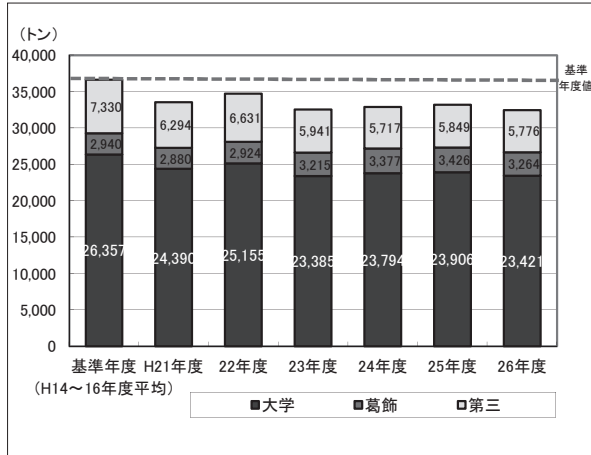
帰属収支差額



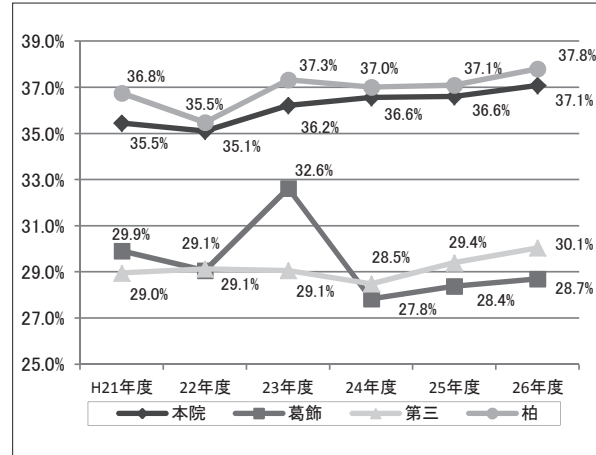
メディア掲出件数



CO₂排出量 (東京都環境確保条例対応)



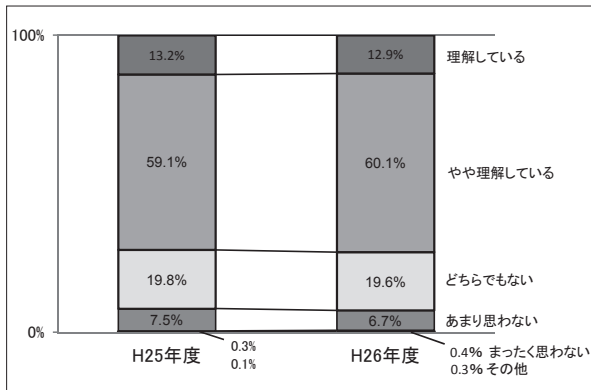
医療経費率



教職員アンケート結果

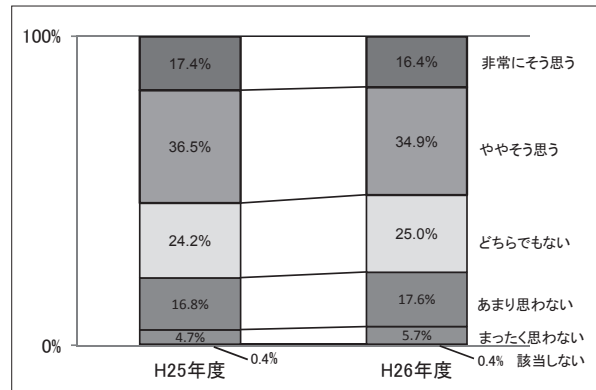
※回答率 H25年度 68.8% H26年度 66.3%

あなたは病院(大学)の理念・使命・目標などを理解していますか？

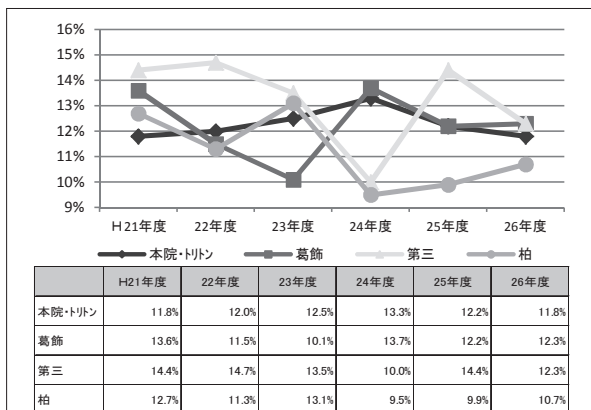


※文部科学省への届出決算書より算出
※衛生管理収入を含む

あなたは、今の職場でこれからも働きたいと思いませんか？



看護師離職率



中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成27年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (1) 教育に関する目標(医学科・看護学科) ○卒前教育 ・将来を見据えて教育理念・教育目標を再構築し、教育の質の向上を図る。 ・問題解決能力を涵養する。 ・高い臨床能力を涵養する。 ・自ら学ぶ態度を涵養する。 ・大学間連携を推進する。 ・厳正で適切な評価システムを構築する。 ・国際基準に適合した医師・看護師教育を実施する。 ・医師・看護師・保健師国家試験合格者の向上を図る。 ・優れた人材の獲得に向けて医学科・看護学科の入学試験方法を改善する。 ・医療人に相応しい人格と社会性を涵養する。 ・多様な進路に対応したカリキュラムを提供する。(研究医・国際貢献など) ・知性と社会性を身につけた医師・看護師を育成するための方策を策定する。	・教育内容公開数 H25: 1 H26: 1 H27: 1 ・連携大学数 H25: 11 H26: 14 H27: 16 ・留学生の受入数 H25: 43 H26: 44 H27: 50 ・臨床実習週(時間)数 (医学科) H25: 60週 H26: 62週 H27: 74週 (看護学科) H25: 1,260時間 H26: 1,260時間 H27: 1,260時間 ・医学科志願者数 (医学科) H25: 2,574名 H26: 2,400名 H27: 2,450名 ・看護学科志願者数 (看護学科) H25: 574名 H26: 610名 H27: 600名 ・医師国家試験合格率 (医学科合計) H25: 95.3% H26: 97.1% H27: 100% (新卒) H25: 97.1% H26: 99.0% H27: 100% ・看護師国家試験合格率 H25: 100% H26: 97.4% H27: 100% ・保健師国家試験合格率 H25: 97.6% H26: 100% H27: 100%	対策(アクションプラン) ①初年次教育を改善する。	学事課	教学委員会	(医学科) 1. 6年一貫教育の中での初年次教育の充実を図る。 2. 変化する新入生の学習態度に合わせて指導を強化する。 3. 初年次教育充実のためのFDを開催する。 (看護学科) 1. スタートアップ宿泊研修を有効に活用する。 2. 看護総合演習Ⅰの内容の点検評価を行う。
		②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 1. 外部評価において指摘された部分的適合の項目について改善計画を立てる。 2. カリキュラム委員会を中心に医学科達成指針に沿ったマイルストーンを作成する。
		③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切り替える。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 4年生全科臨床実習にてログブックを導入し運用する。 (看護学科) 1. 学生との合同会議、区分会議を実施し評価を行う。 2. 基礎科目と看護専門科目との情報共有、連携を深める。 3. 全学年に導入が完了する平成24年度改正カリキュラムの全体評価を行う。
		④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。 附属病院の教育機能を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 1. 4年生全科臨床実習にてログブックを導入し運用する。 2. 今年度9月より開始される集合教育では、新たなユニット「症候から病態へ」、「ケースカンファレンス」を開講する。 3. 学生担当教員向けのFDを実施する。また新たに「新入生スタートアップ宿泊研修」をFDとして加える。
		⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。 教育内容の公開を促進する。	学事課	教育センター 教学委員会	(医学科) 決定されたフィードバック方法の取り決めに従い、学生へ自己主導型学習システム(SeDLES)を用いて成績フィードバックを実施する。
		⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。	学事課	教育センター 教学委員会	(看護学科) e-ポートフォリオシステムがさらに有効に活用されるよう、システムの改良を図る。
		⑦卒前教育における大学間連携を推進する。	学事課	教学委員会	(医学科) 1. 4大学(東京医科大学、昭和大学、東邦大学、本学)連携事業を継続実施する。 2. 首都大学東京からの履修生受入れを継続実施する。 3. 学生交流のための大学間連携を拡大する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成27年度事業計画

中 期 目 標	指 標 (平成27年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑧学習記録と連携させた評価システムを構築する。コンピュータ試験を積極的に導入する。	学事課	教育センター 教学委員会 科目横断評価 プロジェクト	(医学科) 4年生を対象に学内CBT(臨床医学科目横断評価)を実施する。 (看護学科) 2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験、e-ポートフォリオでのリフレクションの精度を更に高める。
		⑨医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の国外留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受け入れる。	学事課	教学委員会 国際交流委員会	(医学科) 1. 英語研究室、国際交流委員会と連携し、卒前英語教育のカリキュラムを見直す。外国人SPを招聘しネイティブOSCEを開催する。 2. 国外の大学と連携・協定を推進する。 (看護学科) 1. 3年後期に開講する国際看護実践の学習内容の充実および海外医療機関・教育機関における看護研修を実施する。 2. 複数地域の看護研修計画を立案する。地域医療の専門家を招聘し講演会を企画する。
		⑩学生の国家試験準備への支援体制を整備する。	学事課	教育センター 教学委員会 学生委員会	(医学科) 自己主導型学習システム(SeDLES)が多くの学生に利用されるよう継続して周知する。4年生に対してSeDLESを用いた形成評価を導入する。 (看護学科) 1. 学生個々に応じた個人指導、主体的なグループ学習の推奨を継続して行う。 2. 科目横断総合試験を効果的に活用する。
		⑪入学試験方法を継続的に改善する。	学事課	入試検討委員会	(医学科) 継続して地域枠入学選抜方法について検討する。 (看護学科) 入試分析会などでの情報収集、学生アンケートによる効果的な入試対策について継続検討を行う。またICT活用について継続して検討する。
		⑫教養教育の高学年への拡充を図る。医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム 委員会	(医学科) 医学科達成指針達成のためのマイルストーンを作成するとともに、教養教育の拡充を行う。 (看護学科) 継続的に看護総合演習IVにおいて、医学科との共修による倫理教育を充実させる。
		⑬選択制カリキュラムの充実を図る。臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。	学事課	カリキュラム 委員会	(医学科) 1. 医学科1年生から6年生にコース「医学総論I～VI」、選択ユニット「医学研究I～VI」を開講する。 2. 研究医養成を目的としてMD-PhDコースの卒前教育部分を導入する。 (看護学科) 継続的に選択科目を開講し内容の充実を図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑭ 広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。	学事課	広報課 広報委員会	(看護学科) 1. 大学ガイド作成、オープンキャンパス、高校での模擬授業、予備校等の大学説明会など、例年通り広報活動を継続する。 2. オープンキャンパスでは、在学生と訪問者が交流できるようなキャンパス案内を検討する。
		⑮ 総合診療医育成のため教育体制を構築する。	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) 1. 家庭医療学開発センターと連携し、教育プログラムを開発し実施する。 2. 高齢者医療体験実習を必修科目として実施する。
○大学院教育 ・臨床を支える研究を推進する。 ・高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者を育成する。 ・研究者育成のための実効ある方策を立てる。 ・社会に開かれた大学院として、生涯学習の場を提供する。 ・大学院教育のカリキュラム評価システムを構築する。 ・看護実践を支える看護研究を推進する。 ・大学院間連携を図り、幅広い研究を可能とする。	・改訂プログラム数 H25: 2件 H26: 10件 H27: 2件 ・大学院生数 H25: 133名 H26: 135名 H27: 135名 ・学位授与数 H25: 62名 H26: 49名 H27: 57名 ・学位論文のインパクトファクター(平均) H25: 3.55 H26: 2.73 H27: 3.00	① 豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	学事課	大学院委員会	(博士課程・修士課程) 4大学院連携事業(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)として昭和大学でがん医療人WSを開催する。 (博士課程) CITI-Japanによるe-ラーニング受講を推進するためオリエンテーション、大学院特別セミナーで周知する。
		② 研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. がん治療医療人コースを開始し、4大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を継続実施する。 2. 萌芽的共同研究推進費を拡充したことを評価できる仕組みを構築する。
		③ 共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 大学院特別セミナーで寄せられた意見を参考に以下の見直しを実施する。 ・医の倫理の授業曜日の変更 ・アイソトープ(A・B)コマ数の変更
		④ 社会人入学の推進を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. 社会人大学院生向けにインターネット上に大学院生向けのサイトを作成する。インターネット上で提出時に使用する書式をダウンロードできるよう整備する。 2. CITI-Japanによるe-ラーニング受講を推進するためオリエンテーション、大学院特別セミナーで周知する。
		⑤ 看護学専攻修士課程における「教育・研究」を改善し質を高める。	学事課	大学院委員会	(修士課程) 大学院生の学会参加、発表を継続して支援する。
		⑥ 大学院生からの大学院カリキュラム(共通カリキュラム・選択カリキュラム)評価を定期的実施する。	学事課	大学院委員会	(修士課程) 大学院生とともに授業評価を継続し、大学院委員会にフィードバックする。
		⑦ 大学院生の論文作成状況を適切にモニターする。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 年度末に大学院生全員に研究活動状況調査を実施する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
○卒業教育 ・卒業教育機関としての質の向上を目指す。 ・卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 ・同窓および地域医療者に生涯学習の場を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レジデント応募者数 H25:172名 H26:156名 H27:170名 ・レジデント採用数 H25:153名 H26:143名 H27:150名 ・医師臨床研修マッチングによる定員充足率 H25:91% H26:91% H27:100% 	①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。	臨床研修センター	教育センター	(臨床研修センター) 1. 臨床研修プログラムは研修管理委員会を通じて適宜見直し、更なる充実を図る。 2. 今後も指導医講習会を中心に指導体制の充実を進める。また、地域指導医の指導充実を図る。
		②専門修得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。	臨床研修センター	教育センター	(臨床研修センター) 1. 専門修得コース(レジデント)プログラムはレジデント委員会を通じて各科に適宜見直しを依頼し、更なる充実を図る。プログラムはホームページに掲載すると共に、冊子として広く配布する。 2. 屋根瓦教育方式の医師教育プログラムと医療安全、感染対策講習を実施する。
		③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。	教育センター	慈恵看護教育あり方会議	1. スキル向上と生涯教育として基礎教育、臨床8部署に拡大する。 2. 看護実践力、看護マネジメント力向上のための段階的研修を3回開催する。
(2) 教育の実施体制等に関する目標 ・教育環境を整備する。 ・教育力の向上に努める。 ・教員評価を推進する。 ・教育評価を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニング実施数 H25:279件 H26:335件 H27:340件 ・シミュレーション教育施設利用数 H25:659回 H26:637回 H27:660回 	①効果的な教育ができるように、講義室やICT環境を含む教育設備を整備する。	学事課 教育センター	教学委員会	(学事課) 1. 次年度から開始される診療参加型臨床実習に向けて、各分院におけるシミュレーション教育内容を検討し、具体案を作成する。 2. 高木2号館南講堂にWiFi環境を整備する。 (教育センター) 1. e-ラーニングシステムの利用を卒前、卒後で280回の実施を支援する。 2. 4病院シミュレーション教育施設において、700件の利用を支援する。 3. e-ポートフォリオシステムを医学科臨床実習において、28診療科での利用を支援する。
②カリキュラムに見合った、教員の適正配置と教員数を検討する。		教員・医師人事室		関連部署と協力し適切な教員数を検討する。	
③教育能力向上のための教育研修を実施する。		学事課 総務課 (生涯学習センター) 教育センター	生涯学習委員会 FD委員会	(医学科) 1. 医学教育セミナーを企画し実施する。 2. 臨床実習指導医養成FDを継続実施し、受講者数を300名以上にする。 (看護学科) カリキュラム改善を視野に入れ、看護学科主催FDを2回以上、大学院合同FDを1回開催する。 (総務課) 生涯教育のための月例セミナーを年8回、夏季セミナーを年1回、継続的に開催する。 (教育センター) 医学教育セミナーを企画し実施を支援する。	
④診療参加型臨床実習の拡充のため、臨床実習指導医のFDを充実させる。		学事課	教学委員会 カリキュラム委員会 臨床実習委員会	(医学科) 分院におけるFD(説明会)を開催する。	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成27年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑤教育アドバイザーを導入する。	学事課 教育センター	教学委員会	(教育センター) 教育アドバイザーの導入を検討する。
		⑥臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。	学事課 教育センター	教学委員会 臨床実習委員会 公開講座委員会	(医学科・教育センター) 臨床実習協力病院向けの説明会を開催する。 (看護学科) 1. 前年度研修会の内容を発展させ、計画する。 2. 平成27年6月と9月に市民向け公開講座を企画、実施する。講師は看護学科教員とする。 3. 平成28年2月に専門職者向け公開講座を企画する。 (教育センター) クリニカル・クラークシップの到達目標を提示し、臨床実習を行う学外3病院に協力を依頼する。
		⑦教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。	教員・医師人事室		事務部門による業績入力を100%行うとともに教員本人による個別入力を更に促進し、昇格審査に活用する。
(3) 学生への支援に関する目標	・医学教育セミナーの開催数 H25：1回 H26：3回 H27：3回	①学生支援のための教員組織を再構築する。	学事課	学生委員会	(医学科) 学生支援のための教員組織について、父兄会開催時に継続して説明する。 (看護学科) 学生生活アドバイザー制度の評価を継続し、更に充実を図る。
		②学力および経済的に問題のある学生に対応する体制を改善する。	学事課	教育センター 学生委員会	(医学科) 1. 秋期父兄会時に学年別懇談会を実施し周知する。 2. 全学生に成績のフィードバックを実施する。 (看護学科) アドバイザーと学生委員会との連携による支援体制を更に充実させる。
		③奨学金制度を充実させる。	学事課	奨学金委員会	(医学科) 1. 日本学生支援機構の海外短期派遣助成制度を継続して申請するとともに、海外学生の受入れに関する助成制度を申請する。
		④精神的支援を必要とする学生のための支援システムを構築する。	学事課	精神神経科 学生委員会	(医学科) 情報共有の観点から、学生相談室と学生部長との連携について検討する。 (看護学科) 学生相談室の周知策および学生が更に利用しやすい相談体制構築のための検討を行う。
		⑤メンタルヘルスの教育を拡充する。	学事課	精神神経科 学生委員会	(医学科) 学生のメンタルヘルスに関する教職員向けの研修会実施方法について精神神経科、学生相談室、学生部長、学事課で検討する。 (看護学科) 教職員向けのメンタルヘルスについての研修会を継続して企画する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成27年度事業計画

中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成27年度事業計画
(4) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の教育の向上を図る。 ・優秀な学生を確保する。	・看護師国家試験合格率 (新橋校) H25:100% H26:99.0% H27:100% (第三校) H25:100% H26:100% H27:100% (柏校) H25:96.3% (既卒1名含) H26:100% (既卒3名含) H27:100% (3校平均) H25:98.7% H26:99.6% H27:100% ・附属病院への就職者率 (新橋校) H25:97.8% H26:92.0% H27:90%以上 (第三校) H25:90.9% H26:91.3% H27:90%以上 (柏校) H25:84.0% H26:87.0% H27:90%以上 (3校平均) H25:91.5% H26:90.1% H27:90%以上	①看護実践を重視した看護教育を行う。	看護専門学校		1. 卒業時看護実践能力の調査を実施し、指導方法に反映する。 2. 自己点検自己評価は3校共通フォーマットを用いて推進する。
		②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	看護専門学校		多様な臨地実習場所を確保し、臨地実習環境を整備する。
		③学生生活支援を積極的に行う。	看護専門学校		1. 国家試験、就職100%を支援する。 2. 学生確保のため、多様な学生に対応した修学資金のあり方を検討する。 3. 休学者、単位未履修者数を減少させる。
		④学生確保のために積極的な広報活動を行う。	看護専門学校	広報課	1. オープンキャンパス、ホームページの内容充実、定期更新を行う。 2. 高校訪問を推進し連携を強化する。
		⑤看護教員の確保に努める。	看護専門学校		1. 各校で教員を募集し養成する。 2. 学内より看護教員養成講習会へ定期的に派遣する。
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準および研究成果に関する目標 ・国際的な視野に立った先進的研究を推進する。 ・質の高い基礎医学および臨床医学研究を振興する。 ・外部競争的資金の獲得を支援する。	・文部科学省科学研究費補助金 採択件数 H25:146件 H26:151件 H27:155件 ・論文発表数 H25:1,291稿 H26:1,233稿 H27:1,300稿	対策(アクションプラン)			
①研究業績を把握し評価する。		学事課	大学院委員会	(博士課程) 年度末に大学院生全員に研究活動状況調査を実施する。	
②教員の職位に応じた論文発表数の基準を設定し、評価する。		学事課 教員・医師人事室	学術情報センター 大学院委員会	(看護学科) 第三病院、第三看護専門学校との共同研究を充実させるため、研究発表会を計画する。 (教員・医師人事室) 臨床教授など新たな職名の新設も含めて学長諮問会議にて継続検討する。	
③国際誌への投稿を推進し、支援する。論文執筆のためのFDを継続して行う。	学術情報センター		1. 医学論文書きかた講習会(大学院共通カリキュラム)を4回以上継続して開催する。 2. 論文執筆時に必要となるデータベース、文献管理システムの利用説明会を開催する。 3. 論文執筆およびプレゼンテーション資料作成を支援する。		

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成27年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
		④ Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の改善・充実を図る。成医会の改善・充実を図る。	学術情報センター 総務課		(学術情報センター) 1. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌の合同編集委員会を年4回以上継続して開催し、両誌の改善、充実に向け検討する。 2. 両誌の内容をインターネットで参照できるよう、掲載記事を本学の機関リポジトリに登録する。 3. Jikeikai Medical Journal、東京慈恵会医科大学雑誌への投稿を広報する。 (総務課) 成医会幹事・運営委員会にて、参加者が興味をもつ講演テーマの検討を継続して行う。
		⑤ 若手研究者による競争的研究資金の獲得を支援する。	研究支援課	教育研究助成委員会	科研費申請のための書き方講習会、日本学術振興会特別研究員応募申請のための講習会、英文論文の書き方講習会を継続して開催する。
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> ・透明性・公正性・中立性の高い研究を推進する。 ・研究環境を整備する。 ・先進的研究実施体制を構築する。 ・寄付講座制度を活用する。 ・医師の研究時間を確保するために効率的な人員配置をする。 ・効率的に人員を配置する。 ・学内横断的研究プロジェクトを推進する。 	① 研究と研究費の執行が適正に行われる体制を構築する。	研究支援課 監査室	教育研究助成委員会	研究倫理推進センターおよび研究適正化特別委員会を新たに設置し適正な研究活動の推進・支援を強化する。
		② 臨床研究支援体制を構築する。研究機器の運用効率を高める。	研究支援課		研究者行動規範を策定する。
		③ 薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室は臨床試験支援センターと連携し、臨床研究を推進する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 総合医科学研究センター	1. 臨床研究支援センターの機能(臨床研究教育、計画書の作成支援、統計解析支援、研究実施支援、モニタリング)を充実させ体制を強化する。 2. 文部科学省「私立医科大学戦略的研究基盤形成支援事業」に新規研究プロジェクトを申請し、臨床研究を推進する。
		④ 先端研究を推進する体制を作る。学内共同研究を推進し、支援する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 総合医科学研究センター	1. 先端研究を推進するための学内共同研究を支援する。 2. ホームページを通じ研究の情報を発信すると同時にシンポジウムなどを行い拠点センターにおける研究を推進する。
		⑤ トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 総合医科学研究センター	1. 大型プロジェクト対策委員会などを通して学内で複数のトランスレーショナル研究を推進する。 2. 萌芽的共同研究推進費を充実させ研究推進体制を振興する。
		⑥ 寄付講座を振興する。	大学事務部 研究支援課		(大学事務部) 寄付講座設置に関する規約を整備する。 (研究支援課) 1. 寄付講座設置につながるような魅力ある学内研究を推進する。 2. 寄付講座の維持、研究を推進する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価し、特色ある研究を推進する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25: 0回 H26: 1回 H27: 1回 学内共同研究数 H25: 35件 H26: 42件 H27: 42件 	①自己点検・評価を推進し外部評価を行い、組織を再構築する。	研究支援課	総合医科学研究センター	総合医科学研究センターが効果的に機能するよう組織の維持・管理を運営会議にて集中的に行う。
		②学内共同研究を企画・推進する。	研究支援課	総合医科学研究センター	総合医科学研究センターを中心とした共同研究を推進する。
		③各部署の特色ある研究を推進し、研究成果を積極的に開示する。	研究支援課	総合医科学研究センター	定期的に研究成果の発表を行い、各講座との共同研究を推進する。
(4) その他 ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座開催数(一般市民および地域医療者を対象) H25: 37回 H26: 36回 H27: 36回 	①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	教育センター	公開講座推進委員会	4機関で30回の公開講座を開催する。
3. 診療に関する目標 ●本院に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 先進医療承認件数 H25: 7件 H26: 6件 H27: 8件 紹介率 H25: 46.8% H26: 67.5% H27: 70.0% 逆紹介率 H25: 30.5% H26: 52.5% H27: 60.0% DPC病院1群としての各機能評価の充実 効率性 H25: 0.00565 H26: 0.00857 複雑性 H25: 0.00000 H26: 0.00000 H27: 複雑性指数を「0」より上げる カバー率 H25: 0.00476 H26: 0.00932 救急医療 H25: 0.00226 H26: 0.00464 地域医療 H25: 0.00189 H26: 0.00459 	<p>対策(アクションプラン)</p> <p>①特定機能病院としての機能を充実させる。</p> <p>②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。</p> <p>③人材育成(スキルアップ)を行う。</p>	管理課	管理課	<ol style="list-style-type: none"> 特定機能病院としての機能を更に充実させるため、各診療科へ病院としての支援策強化や実施申請方法の簡素化に向けた検討を行う。 厚生労働省ホームページなどを随時チェックし、最新情報を入手する。 3,300件がん登録を目標とし、がん登録関連情報を学内外に周知する。 より質の高い患者相談に応じる。 緩和ケア研修会の受講人数増加および緩和ケア体制を拡充する。 緩和ケアチームの増員および緩和ケア外来の診療日増加を目指す。 がん診療連携パスの運用件数は80件を目標とし、更なる運用拡大を目指す。 国立がんセンターとの交流により、「地域がん診療連携拠点病院」の機能向上を図る。 緩和ケアチームを2チーム編成し、がん患者の疼痛緩和などの需要に対応する。 キャンサーボードの定例会議開催による腫瘍センター機能の更なる充実を目指す。 医療安全カンファレンス、CPCによる症例検討への出席を推進する。 鏡視下手術トレーニングコースの運用を委員会を通じて継続する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・DPC地域医療指数・体制評価指数 H25: 9.11P H26: 9.6P H27: 10.0P ・5大がん+前立腺がんのパス運用数 H25: 51件 H26: 87件 H27: 80件 ・公開講座数 H25: 3回 H26: 3回 H27: 3回 ・研修医のCPC出席率 H25: 100% H26: 100% H27: 100% ・認定看護師数 H25: 4名 H26: 5名 H27: 8名 	④院内研修制度の充実を図る。	教員・医師人事室		医師採用時のオリエンテーションを医療安全推進室と共に実施し、受講率を100%とする。
		⑤専門職の充実	看護部	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度の教育課程修了者9名全員が認定資格を取得する。 2. 次年度の資格取得を目指し4名の看護師を4分野(摂食嚥下障害看護、緩和ケア、脳卒中リハビリテーション看護、救急看護)の教育課程へ進学させる。
		⑥チーム医療の強化・推進	病院事務部	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. Team STEPPSを管理者以外の教職員に再度浸透させ、医療安全および感染対策を強化する。 2. 特定機能病院としての機能を強化するために、紹介率、逆紹介率、DPC機能評価係数の向上を図る。 3. クリニカルインディケーターをホームページに掲載する。
		⑦救命救急体制の強化を図る。	業務課	救急部委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近隣救急隊と連携を密にとり、重症症例の救急搬送受入れ体制の周知を図るなど、時間外選定療養費制度導入の顕著な効果を引き出す。 2. 断らない救急体制の構築を図る。
(2) 先進(高度)医療を開発し、施行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・先進医療新規認定数 H25: 0件 H26: 1件 H27: 2件 ※H25の申請件数は2件		管理課	各診療科 先進医療委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療科からの要望に対応できるように常に最新の情報を収集する。 2. 医療の質・技術向上に取り組み、患者ニーズに対応した先進医療を提供する。
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・院内感染防止のためのラウンド数 H25: 391 H26: 309 H27: 268 ・院内感染防止のためのカンファレンス数 H25: 63件 H26: 78件 H27: 102件 	①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部 感染対策室		<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイリスク合同カンファレンスの活性化と円滑な運用を図る。 2. Team STEPPSを主体とした医療安全文化の醸成を図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情・クレーム件数 (管理課) H25: 283件 H26: 315件 H27: 250件 (看護部) H25: 104件 H26: 113件 H27: 100件以下 ・説明と同意書の整備件数 H25: 3件 H26: 3件 H27: 5件 	①インフォームド・コンセントを徹底する。	病院事務部 業務課 医療安全管理部 患者相談室 看護部	病院運営会議	(病院事務部) クレーム対応やご意見箱への投書内容から抽出したインフォームド・コンセント関連項目を該当部署へフィードバックし、患者、家族の満足度向上を図る。 (業務課) 正しいインフォームド・コンセントを徹底するために、改善指導や関連委員会などで警鐘事例報告を行う。 (医療安全管理部) 1. 医療安全に関する事例において、患者への説明と同意が適正に行われているかなど、それぞれの案件ごとに検証する。 2. 新規制定の説明と同意書の審査を迅速に実施する。 (患者相談室) 患者、家族からのインフォームド・コンセントに関する相談時は、説明を補完し、各科との連携を密に取り患者の理解を深める。 (看護部) 可能な限りインフォームド・コンセントに同席し患者、家族の意思決定支援を行う。
		②教職員マナーの向上を図る。	病院事務部 看護部	病院運営会議	教職員マナー月間(春・秋)を設け、服装・接遇の向上を図る。
(5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率(保険法) H25: 46.8% H26: 67.5% H27: 70.0% ・逆紹介率 H25: 30.5% H26: 52.5% H27: 60.0% 	①患者支援・医療連携センターの機能を十分に発揮する。	患者支援・医療連携センター		1. 患者を断らない病院を目指す。また紹介元へ必ず返書する。 2. web予約の導入と運用の拡大を図り、初診患者の取患率を高め、紹介率を向上させる。 3. 病院検索システムの導入と同窓開業医マップを更新する。 4. 新規紹介患者増加を推進する。 5. 病診連携、病病連携を推進しPFMの活性化を図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(6) 臨床研究を促進する。		①薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	臨床試験支援センター		<ol style="list-style-type: none"> 臨床研究支援センターと連携し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針および運用ガイダンスなどに対応し、研究の実施を支援する。 臨床研究を適正に実施するための実施手順およびデータの信頼性確保に対する支援体制を構築する。 臨床試験や治験に係る病院および大学の各部門と連携し、臨床研究の実施体制を強化する。
(7) 効率的医療を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 中央棟手術室利用率(日勤帯) H25:70% H26:70% H27:70% 外来棟手術室利用率 H25:42% H26:37% H27:45% 	①効率的な診療体制の構築を図る。	病院事務部		SCU(ストロークケアユニット)を稼働し、年間増収予算を達成する。
		②手術室の安全で効率的な運用を図る。	管理課	手術・中材・ICU運営委員会	【運用面】 <ol style="list-style-type: none"> 手術件数減少の要因にならないよう、適切な運用を引き続き心がける。 SCUの設置に伴い、緊急手術の受け入れ態勢を充実する。 外来棟手術室の内視鏡部利用により、50%の利用率を目指す。 【安全対策】 <ol style="list-style-type: none"> 術野感染(SSI)の発生数を減少させる。 再手術例の検討をより充実する。 外来棟手術室での内視鏡部利用に伴い、介助も含めてリスク管理を向上させる。 【管理面】 <ol style="list-style-type: none"> 医療材料管理システムの導入により、効率的運用ができるようにする。 収益を意識した手術データ管理と情報の共有を図る。 新外来棟建築後の運用を踏まえた管理体制を構築する。
		③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。	業務課	救急部委員会	<ol style="list-style-type: none"> 救急部来院者データベースシステムの導入効果を最大限に引き出し、救急搬送患者の受入れ強化を図る。 断らない救急受入れ体制を構築する。
(8) ICTを充実し、有効活用する。		①電子カルテを導入する。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	本院の電子カルテシステム稼働に向けて、導入した病院の稼働状況、懸案事項を関連委員会にて検討を開始する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成27年度事業計画

中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(9) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊材料費・消耗品費 経費率削減(平成24年度実績ベース) ・特殊材料費 H25: 0.26% 減少 H26: 0.003% 減少 H27: 0.5% 以内の増加 ・消耗品費 H25: 0.05% 減少 H26: 0.12% 増加 H27: 1.0% 減少 ・原価率 H25: 93.1% H26: 計算中 H27: 平成26年度分 確定後設定 ・後発医薬品の数量シェア H25: 24.5% H26: 41.3% H27: 60.0% 	①月次医療収支額を把握し活用する。	病院事務部		医療収入の改善策を計画・実行し、医療収支予算を達成させるため、各診療部との面談を実施する。
			病院事務部		本院病院経営検討会および保険診療適正化WG(仮称)を中心に医療収支の改善や保険診療の適正化について取組む。
			病院事務部	企画部	
		②他大学とのDPCデータのベンチマークを実施し、活用する。	企画部		<ol style="list-style-type: none"> 1. DPC様式1およびDファイルによるベンチマークを継続し、経営上有益なデータを分析・報告し、経営改善に活用する。 2. 病院機能分化に伴う特定機能病院の要件に関わる分析・情報提供を行う。 3. 診療部長面談などにて迅速な情報提供を行い、経営改善に活用する。
		③医療材料のSPD業務の再編の評価を行う。	病院事務部 施設課 企画部	コストマネージメント・プロジェクト	(病院事務部・施設課) <ol style="list-style-type: none"> 1. 用度業務委託に関する評価と将来計画を策定する。 2. 医療材料に対するベンチマークを実施する。 3. 購入単価チェック体制を見直す。(購入単価決定までの決裁権限、承認基準等について再考する。) (病院事務部) 医療安全面に配慮しながら、後発医薬品への切替えを進める。厚生労働省の掲げる後発医薬品数量シェア60%を早期に達成する。 (企画部) コストマネージメント・プロジェクトを中心に、内部環境の把握、大型診療機器管理システムの構築、医療材料・物流管理システムの効率的運用、各診療科(教職員)へのコスト意識の周知を図る。
(10) 情報公開の条件を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開項目数(手術、合併症率、再入院率、再手術率等) H25: 0件 H26: 0件 H27: 4件 	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課	企画部	7大学ベンチマーク会議などにおける情報交換を継続する。
(11) 晴海トリトンクリニックの現状評価と将来構想		①晴海トリトンクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。	晴海トリトンクリニック	教員・医師人事室 人事課	マスタープランの策定において、今後の晴海トリトンクリニックのあり方、将来構想を検討する。
		②医療機器の計画的な更新を図る。	晴海トリトンクリニック	施設課 外来委員会	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(12) 総合健診・予防医学センターの充実	<ul style="list-style-type: none"> がん早期発見率(平成24年度実績ベース) H25: 0.1% H26: 0.1% H27: 0.1% メタボリックシンドローム該当者率(平成24年度実績ベース) H25: 14% H26: 7% H27: 6% 女性検診での早期異常状態発見率(平成24年度実績ベース) H25: 3.4% H26: 3.0% H27: 3.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。 	総合健診・予防医学センター		<ul style="list-style-type: none"> 1. ドック受診後の結果説明から医療機関受診までの連携を図り紹介状の回答率を10%アップする。 2. 機能評価受審後指摘事項を改善し、健診の向上に努める。 3. がん登録を確立する。 4. 女性検診(経膈超音波)の検診数を増やし早期発見に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> ②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。 	総合健診・予防医学センター		
		<ul style="list-style-type: none"> ③女性検診の充実化を図る。 	総合健診・予防医学センター		
<ul style="list-style-type: none"> ●葛飾医療センターに関する目標 (1) コンプライアンスとガバナンスを強化する。 		対策(アクションプラン)			
		<ul style="list-style-type: none"> ①病院機能評価を受審し認定病院となる。 	葛飾医療センター	病院運営会議	<ul style="list-style-type: none"> 病院としてのプロジェクト立ち上げ時期を明確化し、受審までのスケジュールを策定する。
(2) 健全財政を維持する。		<ul style="list-style-type: none"> ①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。 ②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。 ③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。 	葛飾医療センター	<ul style="list-style-type: none"> 業務課 管理課 管理課 	<ul style="list-style-type: none"> DPC分析とクリニカルバスの拡充、推進を図る。 1. 医療収入と医療材料費の相関チェックを行う。 2. 人件費と委託費の相関チェックを行う。 DWHによるデータを活用し、収益性・機能性分析などの実践から管理会計を強化する。
(3) オープン・システムを拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率(保険法) H25: 49.4% H26: 59.9% H27: 65.0% 逆紹介率 H25: 17.9% H26: 26.2% H27: 30.0% 公開講座平均参加者数 H25: 112名 H26: 97名 H27: 130名 	<ul style="list-style-type: none"> ①附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。 ②教育研修制度を整備する。 ③地域の健康管理・健康増進に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 葛飾医療センター 葛飾医療センター 葛飾医療センター 	<ul style="list-style-type: none"> 入退院医療連携センター 医療連携メディカルカンファレンス委員会 看護部 医療連携メディカルカンファレンス委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 登録医を拡大する。 2. NKネットおよび地域行政との連携強化を図る。 訪問看護ステーションの支援を継続し、看護師復職支援事業の再開を検討する。 公開セミナーを充実する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 診療重点機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送数(年) H25:3,532件 H26:3,771件 H27:3,850件 ・手術件数(年) H25:4,494件 H26:4,519件 H27:4,600件 ・血液透析件数(1ベッドあたり) H25:1.38回転 H26:1.60回転 H27:1.50回転 	①プライマリーケア・ユニット(救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。	葛飾医療センター	救急部 総合内科 小児科	<ul style="list-style-type: none"> 1. PCU(プライマリー・ケアユニット)と専門外来の連携強化および救急受入れ体制を強化する。 2. 救急車応需率および救急患者数を増加させる。 3. 総合内科体制を再構築する。
		②手術室を効率的に運用する。	葛飾医療センター	手術・中央材料室委員会	手術室の稼働率および手術患者数を増加させる。
		③集中治療室(ICU・CCU)を効率的に運用する。	葛飾医療センター	集中治療室委員会	麻酔部人員の充足と集中治療室病床を効率的に稼働する。
		④当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ul style="list-style-type: none"> 1. 次年度は10床拡張するが、初年度は5床増(計25床)の運用で10,900件を目標とする。 2. 血液透析室の増床および透析患者を増加させる。
		⑤がん治療を重点化する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ul style="list-style-type: none"> 1. 東京都がん診療連携協力病院(大腸がん)事業を推進する。 2. がん治療の再稼働を開始する。
(5) 大規模災害に備える。		①BCP(事業継続計画)を策定する。	葛飾医療センター	管理課	BCPの実効性の検証を継続する。
		②DMAT(災害派遣医療チーム)を編成する。	葛飾医療センター	DMAT設置委員会	DMAT隊員の増員を再検討する。
(6) 第二期建築計画を実現する。		①部門毎に活動性を検証し基本計画を立案する。	葛飾医療センター	病院運営会議	別館増築工事を6月に竣工させる。
●第三病院に関する目標					
(1) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。	<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送数 H25:383件 H26:332件 H27:300件 ・手術件数(年) H25:5,757件 H26:5,654件 H27:6,000件 ・病床稼働率(一般) H25:84.0% H26:83.6% H27:88.0% ・紹介率 H25:38.2% H26:53.9% H27:55.0% ・逆紹介率 H25:18.6% H26:32.0% H27:35.0% 	対策(アクションプラン)			
		①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。	第三病院	救急医療委員会	内科の救急体制を整備する。
		②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。	第三病院	手術中材委員会	手術室の稼働率とインターバルを検証し効率化を図る。
		③病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。	第三病院	外来病棟委員会 PFMタスクフォース	入院経路を精査し新入院患者を増やす。
		④医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。	第三病院	総合医療支援センター運営委員会	医療連携システムを導入し紹介元医療機関との連携を強化する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(2) 新病院建築に向け病院機能と財政基盤を確立する。		①収支を改善し、新病院建築前まで単独での投資資金を確保する。	第三病院	病院運営会議	—
		②中期的な大型投資計画、資金計画を策定し、経営課題を分析改善する仕組みを作る。	第三病院	病院運営会議	—
(3) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。		①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。	第三病院		1. 16棟の建築物を撤去する。 2. 新病院の基本構想に向けマーケティング調査を実施する。
		②大規模災害に備えた新病院構想を地域自治体と協力し策定する。	第三病院	防火防災委員会	1. 緊急医療救護所で必要となる医薬品に関して災害薬事コーディネータとの協力体制を調布市、狛江市と協議して決定する。 2. 災害拠点病院として期待される機能を調布市、狛江市と協議する。
(4) 特色ある医療を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・精神神経科入院患者数(1日平均) H25: 10名 H26: 10名 H27: 12名 ・外来患者満足度 「次回も当院をご利用いただけますか」 H25: 91% H26: 92% H27: 90% ・入院患者満足度 「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」 H25: 84% H26: 98% H27: 90% 	①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。	第三病院	精神神経科	森田療法の情報発信を継続する。
		②患者満足度の高い病院への改善を図る。	第三病院	患者サービス・ワーキング・グループ 外来病棟委員会	1. 外構整備に合わせ駐輪場整備工事を実施する。 2. 第2期サイン計画および病棟整備工事を継続し、老朽化した個室の整備などを実施する。
(5) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。		①電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。	第三病院	システム課 第三病院HIS委員会	DWH(データウェアハウス)を活用し経営分析、臨床指標の作成を検討する。
(6) 大規模災害に備える。		①BCP(事業継続計画)を策定する。	第三病院	防火防災委員会	1. 災害時の連絡体制、物資の供給取引状況を検証する。 2. 災害時を想定した各部署の優先業務の整理を実施する。
		②DMAT(災害派遣医療チーム)を編成する。	第三病院	防火防災委員会	継続して行政などによる訓練に協力する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成27年度事業計画

中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成27年度事業計画
(7) 人材確保・育成・活用の推進を図る。		①職員の人材育成制度を強化する。	第三病院		<ol style="list-style-type: none"> 労働生産性向上につながる学内研修会開催の企画や、学外研修会への参加を実施する。 患者サービスの向上につながるため多角的検証と情報収集により研修会を実施する。より専門性の高い外部機関、講師を活用する。
●柏病院に関する目標 (1) 医療の標準化・効率化を推進する。		対策(アクションプラン)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・DPC効率性指数 H25:0.00577 H26:0.00739 H27:0.00816 ・レジメン登録件数 H25:430件 H26:470件 H27:500件 	①医療の標準化、効率化により、医療の質の向上と安全を確保する。	柏病院	薬剤検討ワーキング・グループ セーフティマネジメント委員会	<ol style="list-style-type: none"> 薬剤投与関連の問題点の抽出、検討をもとに改善する。 コミュニケーションエラー対策を強化する。 安全な薬剤投与に向けたシステムを再構築する。
			柏病院	病院運営会議 病院業務改善検討委員会 電子カルテワーキング・グループ	電子カルテの問題点、課題を克服し、安定稼働させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・1C手術件数 H25:7,839件 H26:7,628件 H27:7,000件 	②手術室の安全性の向上と効率化を図る。	柏病院	手術室・中材運営委員会	1C手術室の更なる拡充により、継続的に外来手術件数の増加を図る。
		③医療材料を中心としたSPD方式の手術キット、DRGセットを評価し、効率化と医療経費の削減を図る。	柏病院	医療材料検討委員会 手術室業務改善小委員会	<ol style="list-style-type: none"> 手術キットの材料、DRG内容の使用量の精査、随時見直しを行う。 医材物流WGを活用し共同購入を推進する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルパスの導入件数 H25:5,354件 H26:5,103件 H27:6,000件 	④DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。	柏病院	クリニカルパス委員会	電子カルテに既存クリニカルパスオーダを登録し、紙媒体のクリニカルパスや新規クリニカルパスの審議、承認、登録を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチーム年間介入数 H25:95件 H26:116件 H27:130件 ・院内褥瘡発生率 H25:1.11% H26:0.80% H27:0.79% ・NST介入件数 H25:443件 H26:443件 H27:450件 	⑤患者のためのチーム医療を推進する。	柏病院	緩和ケア小委員会 NST委員会 感染対策委員会 褥瘡対策委員会	<ol style="list-style-type: none"> 緩和ケアチーム 早期からのがん患者支援体制の充実を図る。 栄養サポートチーム(NST) ・NSTの介入および算定数増を図る。 ・NST勉強会の更なる充実を図る。 ・電子カルテ導入後のNSTカルテ運用を検証する。 褥瘡対策チーム 褥瘡ケアを更に充実させ、急性期患者の褥瘡予防、回復促進、重症化予防に努める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成27年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
(2) 地域中核病院として十分に機能する。	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部BSC作成数 H25:20部門 H26:22部門 H27:30部門 ・市民公開講座開催件数 H25:2回 H26:3回 H27:3回 ・救急搬送数 H25:3,034件 H26:4,246件 H27:4,300件 ・救急患者数 H25:7,112名 H26:7,537名 H27:7,600名 ・平均在院日数 H25:12.6日 H26:14.2日 H27:11～12日 ・1日平均外来患者数 H25:1,551名 H26:1,477名 H27:1,445名 ・1日平均入院患者数 H25:541名 H26:543名 H27:574名 ・先進医療の承認および実施件数 H25:3件24症例、 新規承認0件 H26:2件10症例、 新規承認1件 H27:3件10症例、 新規承認1件 ・紹介率 H25:55.0% H26:63.4% H27:60.0% ・逆紹介率 H25:36.7% H26:46.9% H27:50.0% ・地域連携診療計画管理料算定患者数(脳卒中地域連携:脳卒中のみ評価) H25:7名 H26:2名 H27:10名 	<p>①病院のビジョンを共有し、急性期医療・地域医療に貢献する。</p> <p>②周産期センター化を検討する。</p> <p>③患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。</p> <p>④東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。</p> <p>⑤連携病院を拡充し、地域連携を強化する。</p>	<p>柏病院</p> <p>柏病院</p> <p>柏病院</p> <p>柏病院</p> <p>柏病院</p> <p>柏病院</p> <p>柏病院</p>	<p>BSC推進ワーキング・グループ</p> <p>広報委員会 地域がん診療連携拠点病院運営委員会</p> <p>救急委員会</p> <p>病院運営会議</p> <p>患者支援・医療連携センターPFMワーキング・グループ</p> <p>病院運営会議 建築委員会</p> <p>医療連携委員会</p>	<p>BSCをブラッシュアップする。</p> <p>病院および地域がん診療連携拠点病院が主催する「市民公開講座」を地域住民や行政への啓発として更に充実させ、平均参加者を150名とする。</p> <p>1. 積極的に救急患者を受入れる。 2. 救急隊との連携を強化する。 3. 救命救急センターの円滑な運営のための全診療部による救急部のバックアップ体制を強化する。</p> <p>3年から5年先の周産期センター化に向けた検討継続する。</p> <p>1. PFM機能強化による病床の効率的運用を推進する。(平均在院日数の短縮) 2. 増床後の病床配分を見直す。(地域医療体制動向への対応、看護効率に配慮した病棟ユニット構成、病棟単位での医療機能要件の維持、共用床への転換による効率的な病床運用)</p> <p>1. C棟1階手術室の改修を検討する。 2. 先進医療の申請を年間1件以上を目指す。 3. 特徴的な医療を推進する。</p> <p>1. 前方連携を拡大する。(紹介元の拡大、紹介患者増加) 2. 後方連携医療機関の開拓と関係強化を図る。 3. 在宅医療の推進および地域訪問看護ステーションとの連携強化を図る。</p>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成27年度事業計画

中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を实践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外来がん患者延数(年) H25: 7,500名 H26: 8,175名 H27: 8,300名 ・入院がん患者数(年) H25: 3,286名 H26: 3,611名 H27: 3,800名 ・地域がん登録件数 H25: 1,582名 H26: 1,755名 H27: 1,800名 ・がん治療連携計画策定料算定患者数(がん地域連携) H25: 7名 H26: 12名 H27: 20名 	①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。	柏病院	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「がん登録見つけ出しシステム」を活用し、作業効率化と更なる精度向上を行い質の高い院内がん登録を実施する。 2. 5年生存率を臓器別に示したグラフを活用することで診療内容の充実を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・外来化学療法室延患者数(月) H25: 409名 H26: 455名 H27: 460名 ・緩和ケアチーム年間介入数 H25: 95件 H26: 116件 H27: 130件 	②化学療法および緩和ケアの提供体制の充実を図る。	柏病院	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学的製剤等の対象患者を拡大し、提供体制を充実する。 2. 緩和ケア地域連携バス体制の充実と拡大を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携バス数 H25: 5 H26: 8 H27: 15 ・バス使用件数 H25: 14件 H26: 31件 H27: 50件 	③各医療機関からの紹介患者の受入れを行う。また、地域連携バスを活用し、病病連携・病診連携を推進する。	柏病院	医療連携委員会 地域がん診療連携拠点病院運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域連携バスの医療機関を拡大する。 2. 連携バスの件数を増加する。
(4) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3次救急搬送件数 H25: 755件 H26: 881件 H27: 900件 	①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる。	柏病院	救命救急センター運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. ER体制を充実する。 2. 重篤患者の受入れ体制を強化する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急入院料の算定件数 H25: 1,594件 H26: 1,273件 H27: 1,500件 	②救命救急センターの円滑な運営のための全診療科のバックアップ体制を構築する。	柏病院	救急委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急受入れの円滑な運用体制を強化する。 2. ICU、CCUの効率的な運用体制を充実する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院のみ) H25: 1,514名 H26: 1,907名 H27: 2,000名 	③手術室を効率的に運用し、救急患者の受入れを強化する。	柏病院	救急委員会	手術室の効率運用の推進を行う。(1C手術室の拡充と3階手術室の有効活用)
		④医学生、臨床研修医、看護系学生および救急救命士等に対する救急医療の臨床教育を行う。	柏病院	救急委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学生、研修医を対象にICLSコースを開催する。 2. ACLS、BLSコースを開催する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(5) 収益の向上を図る。		収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。 ・医療経費(特殊材料費、消耗品費等)の削減 ・原価率 ・診療単価と手術単価	柏病院	病院運営会議	医療材料費および後発医薬品採用推進などによる医療経費の抑制によりコスト管理を強化する。
(6) ICT推進による医療の効率化・共有化を推進する。		①平成26年度中に電子カルテを導入する。	柏病院	システム課	電子カルテの問題点、課題を克服し、安定稼働を行う。
(7) 災害拠点病院としての体制を整備する。		①自己完結型のDMAT(災害派遣医療チーム)を創設する。	柏病院	DMAT創設ワーキング・グループ	DMAT研修に参加し、要員を増員する。
		②災害拠点病院としての受け入れ体制等を整備する。	柏病院	防火災害対策委員会 病院運営会議	1. 定期的に備蓄量を管理する。 2. 継続して保管倉庫の設置を検討する。 3. 災害訓練を年1回実施する。
		③BCP(事業継続計画)を策定する。	柏病院		BCPを策定し、災害拠点病院としての体制を整備する。
II. 法人運営の改善および効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ・内部統制の強化を図る。 ・理事会機能の更なる充実を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・個人情報管理を徹底する。 ・広報活動を充実する。	・申請過誤件数 H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 ・科学研究費の適正使用(不適切使用なし) H25: 5件 H26: 0件 H27: 0件	対策(アクションプラン) ①内部監査の充実を図る。	理事会 監査室	総務部	改正された学校教育法に則り大学を運営する。 1. 公的研究費に関する新ガイドラインに沿った監査を実施する。 2. 研究適正化特別委員会を支援し、活動を軌道にのせる。
		②理事会機能を検証する。理事の担当役割を明確にする。	理事会	大学自己点検評価委員会	1. 法人事務局の機能強化を図る。 2. 次年度の大学基準協会の「認証評価」受審に向けて法人全体機能の検証準備を行う。
		③慈恵大学行動憲章・行動規範の周知を徹底する。	人事課 教員・医師人事室	広報課	(人事課) 各部署で行動憲章・行動規範の内容を行動レベルに落とし込み、各部署の業務目標として掲出するよう働きかける。 (教員・医師人事室) 教員・医師ハンドブックを新規採用医師および多くの教員、医師に周知徹底する。
		④法令遵守の徹底を図る。	総務課 人事課	監査室	(総務課) 1. 学内の規程表記を統一をするため、継続して点検および提言する。 2. 人事課と協力し、法令遵守精神を涵養する方策を検討し実行する。 (人事課) 総務課と協力し、法令遵守精神を涵養する方策を検討し実行する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑤補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。	経理課 研究支援課	教育研究助成委員会	(経理課) 経常費補助金一般補助の充足条件の検証を継続して行う。特に交付額に影響する項目の分析を行う。 (研究支援課) 経常費補助金の管理体制の強化を推進する。 前年度に改訂された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」および「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に対応する体制を整備して推進する。
		⑥個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。	総務課 管理課(本院・葛飾医療センター・第三病院・柏病院)	個人情報保護合同委員会	(総務課) 1. 4病院合同の講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールで年2回注意喚起する。 (管理課) 個人情報保護法を遵守する取り決めや注意点を研修会で周知徹底する。 (葛飾医療センター) 1. 4病院合同の講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールにて注意喚起メールを年2回配信する。 3. 院内独自の研修会を開催する。 (第三病院) 個人情報の持ち出し禁止、業務外の個人情報の閲覧禁止を徹底するため自院の講習会を開催する。 (柏病院) 1. 研修会を開催する。 2. 個人情報セルフチェックシート(自己診断内容)の見直しを図り、全教職員を対象に年1回実施する。
		⑦本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。	広報課 学術情報センター	広報課/大学 広報委員会 広報課/大学 ホームページ 委員会	(学術情報センター) 1. 各教員の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)のデータ入力促進を図るために、教員評価システムの使用法の説明会を開催する。 2. 情報公開のため教育評価システムの今後のあり方について案をまとめる。 (広報課) 主要メディア掲載数の「教育・研究」カテゴリーの掲載件数を60件程度となるよう情報の掘り起こしを行う。
		⑧事業計画の実施状況を確認する。	企画部		1. 新たなスケジュール管理に基づく目標設定、評価、検証、早期PDCAの実践 2. 中期計画・中期目標の中間評価(前期3年間)の実施
		⑨事業計画を実施するためにBSCを活用し、継続的に評価する。	企画部		1. 大学の事業計画と病院BSC、部門BSCを連動し、目標管理を行う。 2. 職員全部署にてBSCを策定し、事業計画の推進を図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
2. 人材確保・育成・活用に関する目標 ・人材育成のための教育制度を構築する。 ・職場環境を整備し、教職員の満足度を向上する。 ・業務の効率化を図り人件費を最適化する。	・教職員アンケートにおける満足度(平成24年度実績ベース) H25: 53.9% H26: 51.3% H27: 60.0% ・教職員退職率(平成24年度実績ベース) H25: ±0% (115名) H26: 3% (119名) H27: -4% (110名) ・看護要員確保率(平成24年度実績ベース) H25: 100% H26: 100% H27: 100% ・看護師退職率(平成24年度実績ベース) H25: 12.2% H26: 11.8% H27: 11.0%以下	①職員の人材育成制度を強化する。	人事課	院内教育・図書委員会	1. 目指すべき人材育成像を確立し、継続して現行研修を評価する。 2. 中堅監督職クラスの研修対象者および内容を見直し、フィッシュボーンからロジックツリーに至る一連の問題解決手法を学ぶ内容に拡大する。 3. 中堅管理職層を対象としたアセスメントと育成研修を実施する。
		②人材の有効活用のための評価方法を検証する。	人事課		データベースに収載した情報のフィードバック項目を拡大し、所属長が部下を育成するための情報提供を行う。
		③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	人事課 給与厚生課 教員・医師人事室	企画部	(人事課・給与厚生課) 1. 教職員アンケートを実施し、職場環境の改善を図る。 2. 就業規則関連規程を適宜改定する。 (教員・医師人事室) 教員・医師の自己都合による退職者を前年実績以下にする。
		④看護師の雇用安定化を図る。	人事課 ナース就職支援室 看護部		(人事課・ナース就職支援室) 1. 次年度採用目標人員数を確保するとともに、良質な人材確保に努める。特に柏病院の要員維持および第三病院の要員確保を最重要事項とする。 2. 人事課、看護部、その他関連部署と連携強化し採用試験応募者増を図る。 3. 採用環境や競合する他大学の求人情報を把握し、求人活動に反映する。7:1看護の要件見直しによる影響、倫理憲章の影響を考慮し柔軟に対応する。 4. 求人広報として大学ホームページの看護職員採用ページの充実を図る。 (看護部) 1. 必要数に満たない第三病院へ他3病院からトレーディング・プレイスで人員調整を図る。 2. 増加する育児休業者、育児のための短時間勤務者、深夜業務免除者への対応、診療報酬上の算定要件を満たすために人事課と協力し適正人員配置を推進する。
		⑤労働生産性を向上させる。	人事課 教員・医師人事室		(人事課) 労働生産性向上WG活動は継続実施する。対象部署の拡大を図り、本活動が継続するための仕組み作りを行う。 (教員・医師人事室) 医療従事者勤務適正化委員会を通じて医師の業務軽減策を新たに実施し、医師の配置を効率化する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成27年度事業計画

中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成27年度事業計画
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ・ICT導入による効率化を実現する。 ・各部門間が有機的に連携する。		①適正なICTグランドデザインを構築し、ICT戦略を策定する。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	電子カルテを始め各システムで収集された情報の2次活用方法を確立し、診療や研究支援、また経営指標作成の一助とする。
		②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。	企画部		1. 月別原価計算の実施による迅速な報告と経営改善の提案 2. 新コックピットの活用状況の検証
		③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。	総務部 企画部		(人事課) 所属長の標準作業手順書作成を推進する。 (企画部) 病院BSC、部門BSCの策定と実施は、部署間連携を重視し、相互補完体制を構築する。
Ⅲ. 財務の改善に関する目標 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 ・安定した経営基盤を確立する。 ・経営改善が必要な重要項目について具体的な改善対策を推進する。 ・経常費補助金・科学研究費補助金の獲得・増加に努める。	・ 経常費補助金の獲得額 H25: 35.3億円 H26: 33.0億円 H27: 34.1億円 ・ 経費予算と経費実績差額(各部署・科目毎の誤差5%以内/除く、医療経費) H25: 21億円 H26: 16.8億円 H27: 5億円以下 ・ 経常費補助交付額(医学部)私立医科大学での順位 H25: 3位 H26: 2位 H27: 3位以内を維持 ・ 大型プロジェクト研究事業件数 H25: 5 H26: 5 H27: 5	対策(アクションプラン) ①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。 ②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。 ③本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。	経理課 企画部 研究支援課	理事会 財務部 大型プロジェクト対策委員会 教育研究助成委員会	予算申請の適正化を継続して推進する。支出について月次での予算執行把握の精度を高める。 西新橋キャンパス再整備計画と並行して、建築計画とは別にマスタープランとして検討を要する教育機能、研究機能、診療機能、法人本部・関連会社機能、土地活用、財務・資産運用、4病院機能分化などについて討議する。 政府各省庁・民間財団などが公募する大型プロジェクト研究事業に大学として積極的に応募する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成27年度は目標値)	中 期 計 画	主 体 部 署	関 連 部 署・委 員 会 等	
2. 経費の抑制に関する目標 ・コストマネジメント・プロジェクトを設置し経費削減と効率化を図り、堅調な財政基盤を構築する。 ・物流の効率化、一括購入等により経費を抑制する。 ・各種資源の消費を削減する。 ・ICT関連経費の適正化を図る。	・医療経費率 H25：34.7% H26：35.2% H27：35.2%以下 ・東京都温室効果ガス排出総量削減率(東京都削減目標) 2013～2014年度 平均8%削減 2015～2019年度 平均13%削減 (本院) H25：9.3%削減 H26：9.5%削減 H27：13.0%削減 (葛飾医療センター) H25：22.0%削減 H26：25.4%削減 H27：13.0%削減 (第三病院) H25：22.0%削減 H26：20.0%削減 H27：10.0%削減 (柏病院) H25：8.9%削減 H26：2.1%増加 H27：0.5%削減	①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。	施設課 4 病院医材・物流WG コストマネジメント・プロジェクト	4 病院共同購入品目を更に拡大し、推進する。	
		②医療経費の抑制を図る。	病院事務部(本院・葛飾医療センター・第三病院・柏病院) 企画部 薬剤部	コストマネジメント・プロジェクト	(病院事務部) 医療経費率を37.2%以下に留める。 (葛飾医療センター) 1. DRGセットを含めた手術キットの適正化を図る。また、医療消耗品の安価な同等品への切替えを検討する。 2. 医療材料検討委員会を中心に使用材料の適正化、効率的な運用(選定、購入、管理)を行い経費抑制を図る。 (第三病院) 1. 医療消耗品が医療収入の4.5%以内を維持する。 2. 手術原価の正確な把握と4病院比較を実施し手術の標準化、効率化を図る。 (柏病院) 医療安全面に考慮しながら、後発医薬品数量シェア(月平均)70%を目標に後発医薬品への切替えを進める。 (企画部) コストマネジメント・プロジェクトを中心に、内部環境の把握、大型診療機器管理システムの構築、医療材料・物流管理システムの効率的運用、各診療科(教職員)へのコスト意識の周知を図る。 (薬剤部) 医療安全面に考慮しながら後発医薬品への切替えを進める。厚生労働省の掲げる後発医薬品数量シェア60%を早期に達成する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		③地球温暖化防止関連法規を遵守し、エコ活動を推進する。	施設課 管理課 (葛飾医療センター・第三病院・柏病院)	慈恵大学省エネルギー対策委員会 西新橋キャンパス省エネルギー対策委員会	(施設課) 東京都温室効果ガス排出総量削減義務と排出量取引制度における第二計画期間(2015年度～2019年度)の削減義務率13%の達成計画を西新橋再整備計画と整合させ立案する。 (葛飾医療センター) 別館竣工によるエネルギー使用量の増加を見込み、東京都温室効果ガス排出総量削減目標の14%以下を達成する。 (第三病院) 新医局棟竣工によりエネルギー使用量の増加を見込みCO ₂ 削減率10%を達成する。 (柏病院) 温室効果ガス排出量の1%削減とエネルギー管理指定工場としての改善目標を達成するため、積極的な省エネ機器の導入と設備の整備を推進する。
		④ICTの適正導入と評価を行う。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. 仮想化対応の現状、および将来構想を検討する。また、導入済の3附属病院との整合性、親和性を考慮して附属病院導入計画を進める。 2. 本学のPHS更新に伴い、スマートフォンへの切替えを検討し、i-strokeの拡充や電子カルテでの利用可否を検討する。
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 ・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 ・適正な資金運用を促進する。		①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。	施設課		1. 西新橋再整備計画と平行し、最新の平面図を維持する。 2. 著しく増減が発生した場合のコストについて現場への是正提案を進める。 3. 老朽化した設備の更新に必要なEOS情報を収集する。
		②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	施設課		一般撮影装置、X線TV装置を追加した一覧表を用いて本院、第三病院、柏病院の機器更新を実施する。
IV. 自己点検・評価の充実に関する目標 ・自己点検・評価結果を公表し、改善につなげる。		対策(アクションプラン) ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。 ②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。	総務部 大学事務部	大学自己点検・評価委員会	(総務課・大学事務部) 1. 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。 2. 次年度の大学基準協会の「認証評価」受審に向けて準備を進める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
V. その他事業運営に関する重要目標 1. 本院新外来棟建築に関する目標 ・本院新外来棟の建築		①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	1. 新大学2号館の実施設計を完了させ、年度内に着工する。 2. 新病院の実施設計を完了させる。 3. 新外来棟の基本設計を完了させる。 4. 図書館機能の移転計画を策定する。
		②本院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	外来棟建築に向け、附属4病院の機能分化の方向性を検討し、本院の役割について骨子をまとめ、新外来棟の基本計画、基本設計に反映させる。
		③本院の再整備計画の達成	病院事務部	新外来棟基本計画に関する病院幹部検討会	新外来棟建築に伴う基本計画、基本設計(ゾーニング)を完成させる。
2. 大学マスタープランの策定に関する目標 ・明確な長期マスタープランを策定する。		①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	企画部	マスタープラン検討委員会	1. 西新橋キャンパス再整備計画と並行して、建築計画とは別にマスタープランとして検討を要する教育機能、研究機能、診療機能、法人本部・関連会社機能、土地活用、財務・資産運用、4病院機能分化などについて討議する。 2. 外部委員の参加を図るなどマスタープラン検討委員会の改善を図る。
3. 創立130年記念事業に関する目標 ・130年記念事業を実施する。 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。	・記念事業募金額 H25:11.0億円 H26:12.4億円 H27:14億円	①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。	西新橋再整備準備室		1. 新大学2号館の実施設計を完了させ、年度内に着工する。 2. 新病院の実施設計を完了させる。 3. 新外来棟の基本設計を完了させる。 4. 図書館機能の移転計画を策定する。
		②記念事業に必要な寄付金を募集する。	財務部(募金事務局)		平成27年9月の寄付金募集期限延長を検討する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成27年度事業計画
中期目標	指標(平成27年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
4. 大規模災害時の対応に関する目標 ・大規模災害発生時の体制を構築する。 ・BCP(事業継続計画)を策定する。	・本学全建物の耐震基準充足率 H25:85% H26:95% H27:100%	①大規模災害時の体制を強化する。	総務部 病院事務部 大学事務部	総務課 人事課 システム課 施設課 管理課 他	(総務課) 1. 附属病院および大学のBCPの精度を高め、大規模災害発生時の適切な行動、事業運営に備える。 2. 災害用備蓄品について、継続的な拡充を進めるとともに、保管場所を確保し効率的な搬入出方法を検討する。 3. 地域と協力して災害対策訓練を実施し、院内のマニュアルを改定する。 (病院事務部) 既存部門BCPのブラッシュアップと新規部門の作成を継続する。 (大学事務部) 西新橋再整備計画を視野に入れて、大規模災害発生時の適切な行動、事業運営ができるよう、マニュアルの整備を作成する。
		②大規模災害に対応する施設・設備を整備する。	施設課		1. 西新橋キャンパス内のすべての建物の安全性、病院機能の保持、災害拠点機能を保持できるよう西新橋再整備計画と平行し立案する。 2. 新病院と新大学2号館機能での災害対応機能を整備する。
		③被災地への支援体制を構築する。	管理課(本院・葛飾医療センター・第三病院・柏病院)	防火防災対策委員会	(管理課) 1. 新規隊員養成研修の受講および既隊員の技能維持研修の受講。チームとして合同訓練への参加。衛生用品やウェア関連の整備を継続する。 2. 被災地への医療支援派遣要請時には当該科の状況を確認して人材を派遣する。 (葛飾医療センター) 1. DMATの技能維持研修への参加準備およびDMAT隊員の増員を検討する。 2. 被災地への支援体制について中長期的視野で検討する。 (第三病院) 行政などによるDMAT訓練を継続する。 (柏病院) 1. 技能維持研修への参加および隊員の増員を進める。 2. 訓練に参加する。
5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標		新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。	葛飾医療センター	企画部	今期中期計画完了後に総合的な評価を行う。